

飛 翔

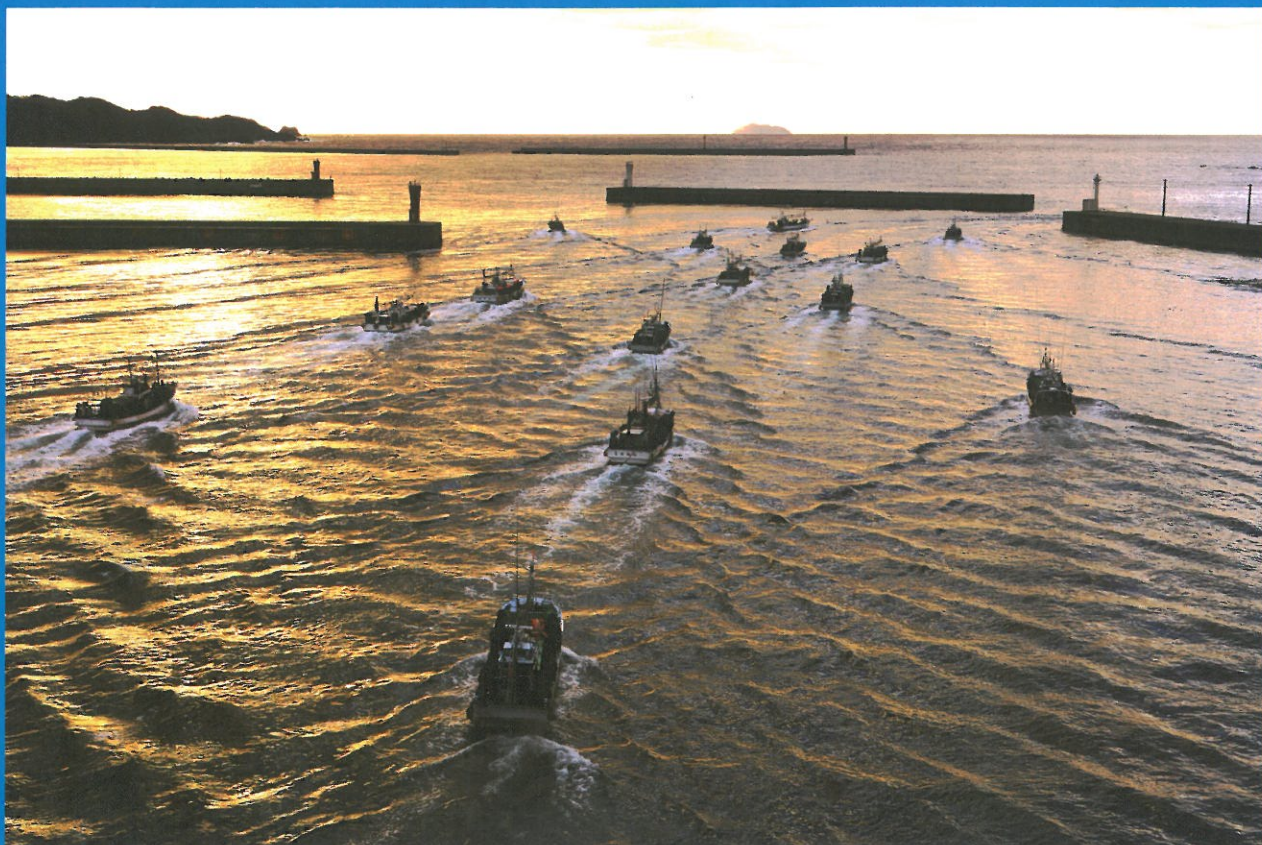
シルバー **はまだ** 30号

2013年(平成25年)8月10日発行

編集発行

公益社団法人 浜田市シルバー人材センター
浜田市殿町83番地122

TEL 0855-23-4680 FAX 0855-23-6086



一斉出漁

浜田港から夕日に向かっての出漁

写真提供：植田 茂美 氏

新役員紹介

(平成二十五年五月三十一日)

理事長 藤原 ヒサヨ

副理事長 長見 邦尚

常務理事(事務局長)

佐々木 章

理事 小谷 典弘

長松 美千子

橋津 紀久

宮本 武夫

宮崎 正臣

吉川 久美子

小松原 俊行

小澤 孝子

監事 松尾 俊和

田野 正幸

(任期 平成二十七年度

定時総会の日まで)

事務局

事務局次長 長谷川 渉

原 田 昌弘

小出 優子

やさか支部 永野 純子



浜田市長

宇津 徹男

ご挨拶

会員の皆さんには、平素から浜田市政の推進に格別のご理解とご協力をいただいておりますことに厚くお礼申し上げます。

また、浜田市シルバー人材センターにおかれましては、高齢者の就業機会の提供をはじめ、幅広く様々な活動に尽力しておられますことに對しまして敬意を表するものであります。

本年四月一日から、浜田市シルバー人材センターは公益社団法人に移行されました。かねてより、認定を受けるために準備を進めてこられました。センターの活動の公益性と社会的信頼性の向上へとつながるものとなりました。

さて「団塊の世代」が高齢者となる平成二十七年以降は、多くの方が活動の場を職場から地域へと移すこととなり、皆さんが活躍できる社会環境を整えていくことが必要となります。

また一方で、子育てや介護等、家庭生活を社会的に支えていく必要が高まる中、これからの地域社

会には、経験豊富な高齢者が活躍できる場が多く存在していると考えられます。

長年培われた知識・技術・経験を活かすことができる「居場所」と「出番」の提供の場がシルバー人材センターであり、その担い手が会員の皆さんです。「自主・自立・共働・共助」の理念のもと、会員の皆さんの活躍が、多くの方の意欲や希望、やりがいや生きがいを見出せる社会づくりへとつながるものと思っております。今後もセンターを中心とした人の輪が広がり、さらなる会員拡大と高齢者福祉の向上が図られるものと期待しております。

浜田市としても、皆さんが住みなれたまちで安心して暮らしていけるまちづくりを目指してまいりたいと考えております。

終わりに、浜田市シルバー人材センターの今後ますますのご発展と、会員の皆さんのご健勝とご活躍を心から祈念いたしまして、ごあいさついたします。



公益社団法人

浜田市シルバー人材センター

理事長

藤原 ヒサヨ

浜田市シルバー人材センターは、公益社団法人へ移行し、今まで以上に法令遵守、内部統一、透明性を求められ、健全且つ安定した財政運営を確保しなければなりません。

平成二十四年九月に閣議決定された「高齢社会対策大綱」においては、政府が推進すべき基本的施策の一つとして、全員参加型社会の実現のため高齢者の雇用・就業対策の推進が掲げられ、その雇用・就業機会の確保のため「シルバー事業」を推進するとされており、これまで以上に重要な役割を担うこととなります。

三月総会でも申し上げましたが、当センターも全国シルバー人材センター事業協会に入会し、来年は設立二十周年を迎えます。

全国的に会員を拡充することを強く指導され、特に女性会員の拡大を求められており、平成二十五年度事業計画で女性部会の新設を決定し、取組みを進めています。

団塊の世代が六十五歳となり、

会員の拡大は平坦ではありません。社会的信用を得た公益社団法人として、「安全を全てに優先させる」を念頭において、進めてまいります。

顧みますと全国組織は、昭和五十五年には会員数四万六千人、契約金額四十二億円でしたが、平成二十四年度は、会員数約八十万、契約金額三千七十億円と増大しております。

その一翼を担う一組織として、二度に亘る事業仕分けで補助金の減額による財政難も試練の一つとなっておりますが、国、県、市の関係機関の皆様のご指導とご支援の賜物と感謝申し上げます。浜田市シルバー人材センターもこれまで以上に役員共々研鑽を積み重ね、市民の皆様にも存在感のあるセンターとなるよう取り組んでまいります。

最後になりましたが、例年になく猛暑の中、会員の皆様にはお健やかな毎日でありますようお願い申し上げます。



小松原 俊行

去る五月三十一日の定時総会において理事に選任されました。大役をお受けするに当たり、ご挨拶申し上げます。

シルバー人材センターの会員の皆様は、各々の得意分野に能力を発揮して仕事を的確に捌いておられ、その姿にはいつも感嘆しています。



小澤 孝子

平成二十五年度定時総会において理事に選任されました浜田市健康福祉部長の小澤でございます。

会員の皆さんには平素から健康福祉行政の推進につきましてご支援、ご協力をいただいております。ことに厚くお礼申し上げます。シルバー人材センターでは、就業機会を確保、提供することによ

新理事就任あいさつ



私はUターンしてから一事業所のみの勤務で定年を迎えたこともあり、人材センターの豊富な職種について行けるか心配しています。果たして何が出来るのかなと思いつながら、これも何かのご縁と前向きに考え、お引き受け致しました。

まずは仕事に慣れること、そして、会員の皆様方のご協力のもと、共に楽しく、共に元気で任務を遂行出来れば何よりです。どうぞよろしくお願い致します。

り、生きがいの充実と福祉の増進を図るとともに活力ある地域社会づくりに努めておられますことに敬意を表するものであります。

現在、浜田市の高齢化率は、32%を超えています。高齢者の方がやりがいと生きがいを持って生活するためにもシルバー事業は、これまで以上に重要となります。

私も、シルバー人材センターと市行政の連携が深まり、事業が推進するよう努めてまいりますのでよろしくお願いいたします。

総会報告

第37回通常総会

平成二十五年三月二十七日
浜田商工会議所3階大ホール

議題

○平成二十四年度収支補正予算
第一号

○平成二十五年度事業計画
○平成二十五年度収支予算

質疑応答

野田紘子会員が女性部会新設の構想と設立時期について質問した。

答弁 女性部会は女性理事と女性会員にも入っていたらいい構成し、女性会員の拡大、就業先開拓、就業にあたっての課題等について協議する。渡部理事が退任され後任の小澤健康福祉部長は五月総会で理事に選任されるため、女性部会設置は五月総会以降になると答えた。

河上直良会員が、就業中のケガが労災で認められず、また健康保険も適用されなため自費で支払うことになり大変困っていると新聞で見た。安心して働けない。浜田ではどうなっているかと質問した。

答弁 この件は現在裁判となっており、全シ協も全面的に支援してい



執行部



議長
る。国は無保険とならないよう制度見直しをする考え。浜田のケースでは、会員が浜田医療センターで就業中のケガを受診したときに、健康保険が適用されたと答えた。



相生町
小松原 俊行氏

講演

「浜田医療センターの現状について」
国立病院機構浜田医療センター

院長 石黒 眞吾氏

平成二十五年定時総会

平成二十五年五月三十一日

浜田公民館（浜田市殿町）

議題

(1) 報告事項

○平成二十四年度収支補正予算

第二号

○配分金規約の改正

(2) 決議事項

○平成二十四年度事業報告

○平成二十四年度収支決算

（監査報告）

○役員を選任

議長



長沢町
藤田 和正氏

質疑応答

奥田望会員が、公益社団法人

第37回通常総会講演要旨
地域住民が安心して頼れる病院を目指して



浜田医療センター
院長
石黒 眞吾氏

県西部は医師や看護師不足といわれるが、人口十万人当たりではほぼ全国並みだ。医師不足というのは、医療が高度化・専門化・細分化しているからだ。また医師の偏在という問題もある。県の対策で地域枠を設けて医師を養成しており、医学生に地域に残ることを期待していると伝えていく必要がある。

浜田医療センターは平成二十一年十一月に新築移転した。病床数は三百四十から三百六十五に増えた。看護学校も新築とな

化のメリット及び受注減少に対する取組みを質問した。

答弁 公益社団法人化のメリットは税制面の優遇措置である。受注減少対策で執行部が事業所訪問を行うが、会員も地域でシルバーをPRし受注拡大に協力してほしいと答えた。

り、研修医の宿舍もできた。駅と直結し利便性が高くなった。職員数は非常勤を含めて五百七十七名、医師は五十名弱、研修医は今年十名以上、看護師も増えている。二十八の診療科がある。看護学校は一学年四十名で浜田近辺から半分以上が入学している。卒業し浜田医療センターに残るのは、十五名から二十五名だ。

入院患者は平均三百三十三人。外来患者は一日五百五十人。設備面では、健診センターを併設。がんの診療拠点病院として緩和ケア病棟を新設。救命救急センターが非常に大きくなった。リハビリ病棟が完備された。二十三年四月から、がん相



談支援センターにがんの認定看護師と事務職員を常時配置し、がんに関する相談を受付けている。救命救急センターへは年間約一万四千人の救急患者が来院され、約二千三百人が入院される。

患者は、がん二十二%、循環器疾患十三%、消化器十三%、さらに産科と呼吸器疾患を合わせて約八十%である。

県西部のがん診療の拠点病院であり、放射線治療を行う。がんの早期発見、がんの進展、術後の再発などはPET-CTを使うことで非常に早く診断できる。月に八十件利用している。脳卒中は年間の患者数が三百人位。周産期は里帰り分娩を受け入れていた時で年間五百二十例があった。

地域医療支援病院と認定され、地域の中核病院だが、開業医の先生との連携が重要だ。来院の場合は、出来るだけ地域の開業医の先生と相談し、紹介状を持参することで診療がスムーズとなり、外来の待ち時間も少なくなる。

二十五年九月から、まめネットという医療情報ネットワークが稼

働する。例えば県立中央病院を紹介し治療を受けなければならぬ場合、医療センターで採ったデータ等を、そのまま電子カルテでリアルタイムに見ることが出来る。また医療センターで手術や治療を受けた内容を、開業医の先生が電子カルテで中身を見ることが出来るシステムだ。システムに参加する患者の同意書が必要。

災害拠点病院に指定され、DMAT(災害医療派遣チーム)も編成した。

事務を補助する医療クラークや看護師クラークを配置し、医師や看護師の負担を軽減させている。糖尿病、がんの化学療法、集中治療、緩和ケア、感染症、脳卒中とリハビリ、手術等に特化する看護師の専門化に取組んでいる。

皆さんに病院を知ってもらいたく様々な工夫をし、病院フェスタやがんに対する市民公開講座を開催している。

今後の課題は、医師の数を増やし、欠員科をなくすことだ。医療センターの目指すものは島根県の中核病院、西部の中核病院、またレベルを上げて、他の病院へ送ることなく医療センターで完結できる自己完結型基幹病院であり、地域住民が安心して頼れる病院だ。

浜田市シルバー人材センター 同好会 ―入会のお薦め―



写真はパソコン同好会

○カラオケ

毎月第四土曜日 当センター

午後1時30分～3時30分

・問い合わせ先

長見邦尚 ☎26-1070

○囲碁

毎月一回予定

浜田市総合福祉センター

・問い合わせ先

東條俊信 ☎28-2867

○グラウンドゴルフ

毎週二回(火曜日・土曜日)

午前9時30分～12時00分

文化公園・野外音楽堂広場

・問い合わせ先

長見 邦尚 ☎26-1070

佐々木康隆 ☎22-6137

○旅

中辻 章 ☎28-1837

年5～6回 日帰りハイキング(県内)年1回県外旅行有例会毎に次の行先を決定。

・問い合わせ先

山形喜信 ☎22-2671

○手芸

毎月2回 第二・四金曜日

午前9時30分～11時30分

当センター

・問い合わせ先

佐々木敬子 ☎28-1175

○俳句

毎月第三土曜日

午後1時～3時 当センター

・問い合わせ先

長松美千子 ☎26-0025

砂田 一 ☎22-3038

○パソコン

毎月2回 第一・三土曜日

午後1時30分～4時

当センター

・問い合わせ先

砂田 一 ☎22-3038

松尾俊和 ☎22-7613

■詳しいことや入会の申し込みは各同好会お問い合わせ先へお願いします。

シルバー仕事紹介



漁港関連



私たちは、JFしまねが管理している浜田漁港の建物施設の清掃、浜田漁港にあります「BB浴場」の管理運営及び清掃委託により就業し、また、発泡スチロールの溶解作業とせり場の清掃作業を行い環境の整備に努めています。

その他、JFしまねのご協力のもとに、出港前の船に製氷を積み込む施設の運営を任せられ、氷の準備から販売までを行っています。

障子・襖張替え

私たちは、襖や障子の張り替え作業を行っています。この写真は網戸の張り替え作業です。



草刈



私たちは、大学班に属していて、主に除草作業を行っています。これからの時期、暑さと草との戦いですが負けずに頑張っています。



6年10月1日入会
井野 清治

元気が第一

私は現在、シルバー人材センターからの紹介でB B浴場に就業しております。B B浴場は水産加工団地のお魚センターの横にあります。主に県外の船員さんが入る風呂場です。サウナがあるので一般の人も入りに来られます。常連さんも十人位毎日来られます。このところは、魚の漁が少ないので平均三十人位、漁が多いときは百人位入る時もありました。

料金は漁業関係者が五百二十五円、回数券は十二枚一冊が五千二百五十円、一般の人は六百三十円、回数券は十二枚一冊が六千三百円です。

就業体制は、会員の男性五名、女性二名で交替制です。男性の就業時間は、早出の人は朝八時から十四時十五分で、浴槽に湯を入れるため七時頃には出るようです。遅番の人は十四時十五分から二十時三十分までで、料金計算と浴槽の掃除をしています。女性は、十七時三十分から二十時三十分までで、窓拭きとフロアーとトイレの掃除をしています。

高齢者になるにつれて、様々な理由から外出する機会が少なくなると言われています。お陰様で元気で、老人会の世話もしております。元気が第一です。



13年11月21日入会
溝端 幸一

振り返って思うこと

「光陰矢の如し」とは良く言ったもので、あつという間の十二年でした。つい先日入会した様な気持ちでもあります。先ず健康で日々過ごせた事に感謝しなければと思います。

現役の時よりずい分異った事もあり不安でしたが、センターの皆様の助言を受けながら何とか現在に至る事が出来ました。これまでに手掛けた仕事は種々様々。KDDの刈草の処理、剪定、草刈、雨樋の修理、ペンキ塗り、波板張り。測量の手伝い等々。暑い夏の日、寒い冬、山あり谷ありの月日ではありましたが楽しく働く事が出来ました。何よりもお客様から「次回もお願いします」の言葉は明日の活力と成っています。

人生これからと思つて入会し、そしてもう少し皆様の役に立てればと思つて現在。最近特に思う事は自分は老いて行くとは思っていないのですが、孫の成長を目の当りにするにつけ月日の流れを痛感しています。「じいちゃん頑張つてね」の一言に勇気百倍の昨今です。

会員の皆様との交流を今まで以上に深め、一緒に楽しく日々精進して参りたいと思つています。健康管理に気を使つてくれている妻に感謝の気持ちを書き添えたいと思います。



22年10月8日入会
千代 清子

いろいろな仕事をしています

知人の紹介でシルバー人材センターに入会させていただきました。最初は(平成二十三年三月)六月及び九月(平成二十四年三月) 偕生園の屋内清掃でしたが、入園しておられる、おじいさんやおばあさんたちに、いろいろな体験話や苦勞話を聞かせてもらい、私はまだまだだなど思いました。でもよかったです。シートの交換も教えてもらいました。看護師さんは、早くとても綺麗にされていました。

江津の谷口農園は三月に花摘み作業、四月には伐採・農作業、梨の花粉付けがありました。さらに五月に小さい子袋を掛け、六月に大きい袋を掛ける作業でした。谷口農園のお父さんは九十四歳でがんばつておられます。九十四歳まで車の運転をしておられました。家族の勧めで今は運転免許をセンターに返されました。お父さんは仕事が生甲斐で、仕事があるから元気で居られると言つておられます。とても思いやりのある優しいお父さんです。

私も車の運転が出来る間は仕事ができるように、又あてにされ、喜ばれる仕事をするようにがんばります。お客様や会員の皆様と良い絆が出来て、うれしく思っています。



25年4月1日入会
平山 敏子

生活に張り合いが 出来ました

専業主婦の私が三十五年ぶりに就いた仕事は、市役所が耐震工事のために借りたN T Tビルのセキュリティを解除して、来庁者にドアを開く業務です。

毎日を夫と平々凡々に過ごしていた私が、シルバー人材センターの仕事をすることになったのは、ペアーレのプールで知り合った手芸同好会の方に誘われたのがきっかけでした。

何の資格も持たず、二十代前半に数年働いただけの経験しかなく、しかも、月の内一週間は浜田を離れ、実家の母のもとへ行く私に出来る仕事があるとは到底思えませんでした。

そんな私にセンターからお話を頂いた時には、とても驚きました。

やつてみたい気持ちと、体力に自信がなく一年間続けられるだろうかと思う不安な気持ちが半々でしたが、勇気を出してやつてみると、生活に張り合いが出来、とても楽しく働いています。

今の目標は、健康に気をつけて残り九カ月を無事に勤めることです。



安全就業の充実を目指して

安全部会長 長見邦尚

はじめに

平成二十五年度は、安全部会委員の改選期ですが、私が部会長に再任されました。よろしく願います。

一、安全就業について

全シ協、木田前研修・支援課長は、「安全なくして、シルバー事業なし」と言われています。

当シルバーでは、今年度も早々に、草刈作業中に駐車車両のガラスを破損する事故が発生しています。(昨年と同じ事故再発)

私、個人としては、「防ぐことのできる事故が、防げない会員さんは、即、職種を変えたい」という考えです。

二、安全就業基準については、前回二十九号に掲載していますので参考にして下さい。

三、草刈研修、剪定研修については、毎年実施しています。この研修は、技術のみならず、安全就業意識の高揚も重要な目的です。

県内のシルバー人材センターには、「研修終了者でなければ、草刈作業の就業を認めない」とされているセンターもあります。

四、安全部会で決議している事項

- 1、安全基準の周知徹底
理解・納得・体得
- 2、安全部会委員による巡回と、指導体制の強化
- 3、交通安全と、交通事故防止意識の啓発強化

おわりに

年齢を重ねるごとに、体力は弱くなりますが、注意力とか、洞察力は向上して行くと、私は思っています。

力を合わせて頑張りましょう。

安全部会におきましては、適宜部会を開催し、安全就業の実践について取り組んで参りますが、会員の皆様から疑問等ございましたら、お知らせ下さい。



熱中症に
気をつけよう

予防するポイント

- 1 日頃から睡眠を十分にとり、体調に気を配る。朝食抜きは厳禁。
- 2 作業前・作業中・休憩時などに水分をこまめにとる。大量に汗をかく場合は、塩分もとる。
- 3 就業場所の風通しに配慮する。
- 4 服装は、通気性や吸湿性の良い物を身に着け、高温下では頭部や首筋に冷やしたタオルを巻いたり、屋外では帽子をかぶる。
- 5 冷房のある施設や日陰などの涼しい場所で、休憩を十分にとる。
- 6 屋外での単独作業の場合は、定期的な連絡をとる。

熱中症が発症したら

一緒に働いている会員さんの気分が悪くなるなど、熱中症が発生したときは、すぐに涼しい場所で衣類をゆるめて安静にさせ、スポーツドリンクなどの水分を与えます。水分を自力で飲めない、呼びかけに応じない、意識がない場合は、直ちに救急車を要請して医療機関に搬送してください。

編集後記

新年度四月一日から公益社団法人へ移行しスタートして早や四ヶ月が経過しました。五月の定時総会を無事に終え、認定後の組織体制づくりも着々と整えられ、夫々の立場での役割分担も明確に、シルバー人材センターの役割は「高齢者の多様な働き方を通じて」、「地域に貢献すること」、「期待(ニーズ)に応える組織であり続ける」ことが大切であると言われています。

当センターが目指すシルバー事業を健全に運営していくため、会員の皆様と役職員が一体となつて、個々の技能と質の高い仕事に加えて「公益社団法人」としての意識を高め、地域を支える活動の核として前進しましょう。

編集委員

橋津 紀久
宮崎 正臣
小松原 俊行
佐々木 章
長谷川 渉